

第5回 学習指導基本調査（高校版） ダイジェスト

調査概要

●調査テーマ：公立高校における学習指導の実態と教員の意識

●調査方法：郵送法による質問紙調査

●調査時期：2010年8月～9月

●調査対象：全国の公立高校の校長および教員

校長 830名（配布数2,000通、回収率41.5%）

教員 4,791名（配布数12,000通、回収率39.9%）

* うち今回の教員調査では、校長調査と勤務校がマッチング可能な3,070名を分析対象とした。

* 国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語のいずれかを担当している教員を対象に実施。

* 抽出方法：全国の公立高校のリストより、都道府県の教員数に応じた抽出確率で無作為に学校を抽出。校長調査は校長に回答を依頼した。教員調査は年齢、性別、担当学年、担当教科を考慮した各学校6名の教員の抽出を校長に依頼した。

●調査項目：

【校長調査】カリキュラム編成の特徴／平日の朝・放課後、土曜日等の時間の活用状況／試験／今後の進路指導方針／校内研修／新学習指導要領の検討状況／新学習指導要領の全面実施への不安 など

【教員調査】授業の進め方・内容・方法／指導観／宿題・家庭学習指導／進路指導に関する課題意識／指導力向上の取り組み／保護者の変化／日常生活／教職の魅力／悩み／教員生活の満足度／将来展望 など

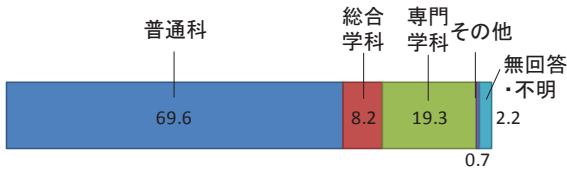
※高校教員の学習指導のあり方は、高校の学科や生徒の入学時の学力水準によって大きく異なると考えられる。そこで、教員調査の分析では、「学科」「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績（評定平均）」に関する校長の回答を用いて、いくつかのグループ分けを行った上で集計結果を示している。そのため、教員調査については、有効回答数4,791名のうち、校長調査とマッチング可能な3,070名を中心に分析を行った。

※本ダイジェストでは、各高校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績（評定平均）にもとづいて普通科をA～Dグループの4つに分類している。各グループの詳細については「『学科』『入学時の学力水準』」による高校の分類」（p 3）を参照されたい。

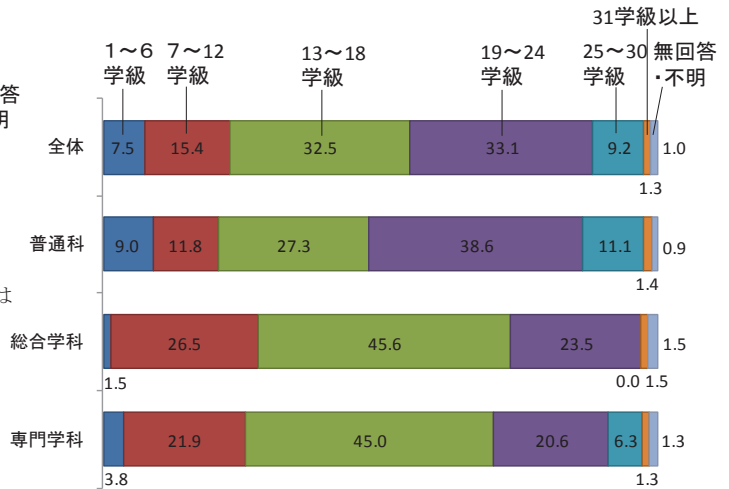
基本属性

学校属性

●学科(全体)



●学級数

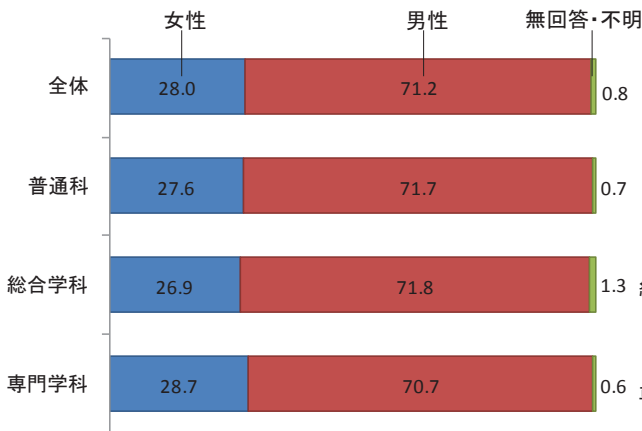


注1) ここで「学科」とは、設置学科のうちもっとも募集定員が多い学科を指す。

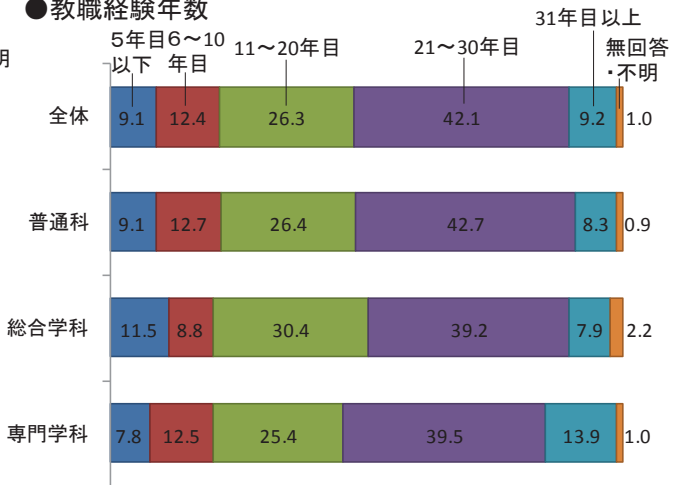
注2) 「普通科」は理数、外国語を含む。「専門学科」は工業、商業のほか、農業、水産、看護等を含む。

教員属性

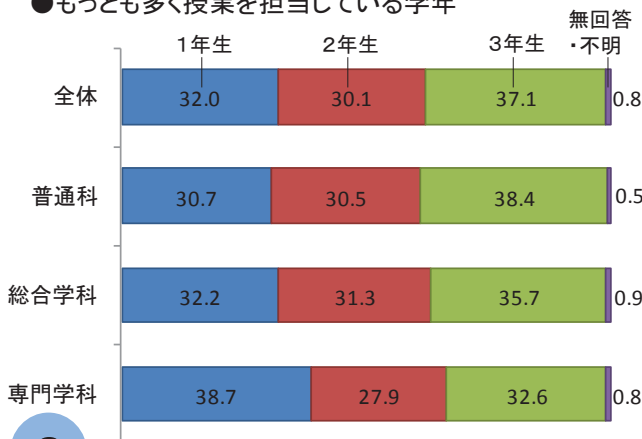
●性別



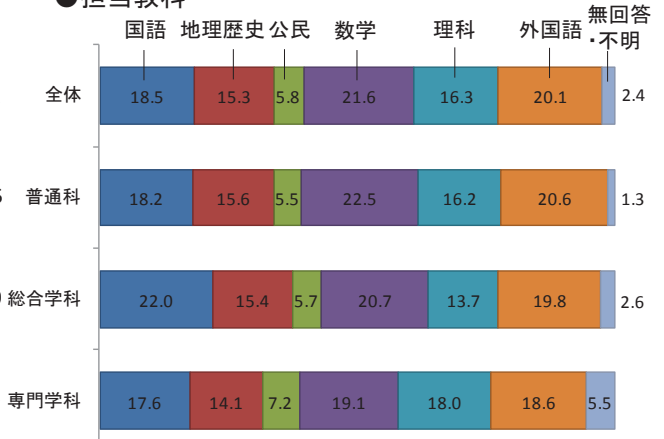
●教職経験年数



●もっとも多く授業を担当している学年



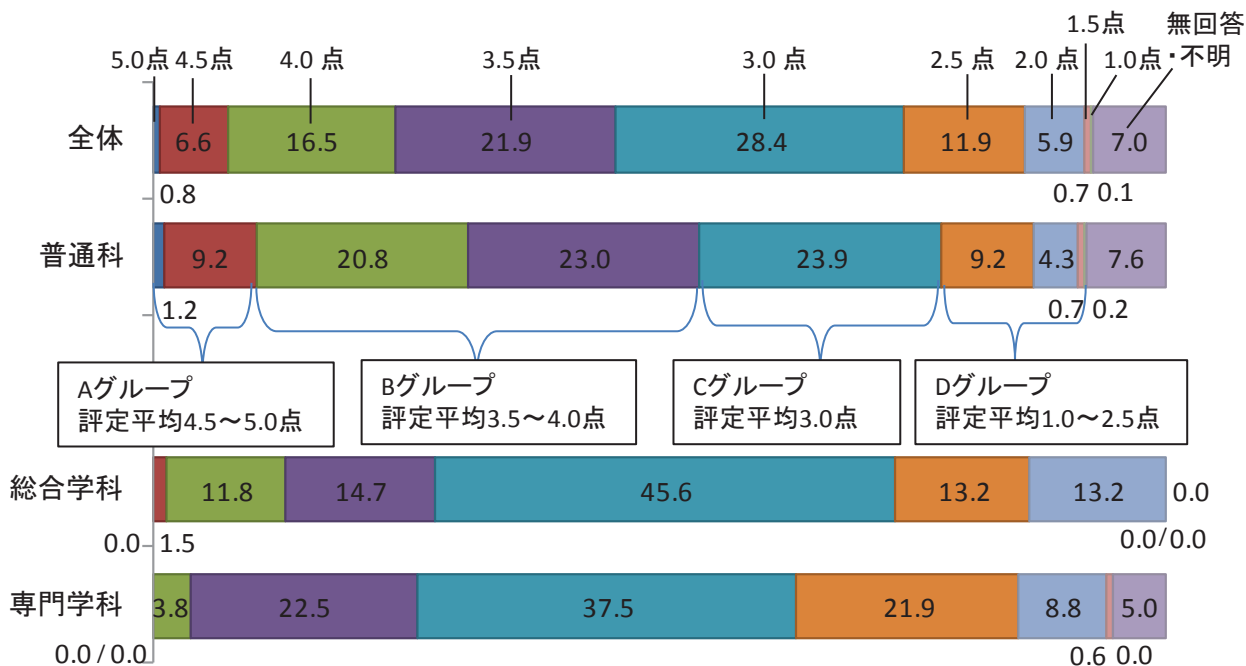
●担当教科



●「学科」「入学時の学力水準」※による高校の分類【校長調査】

※「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績（評定平均）」に関する校長の回答を用いた。

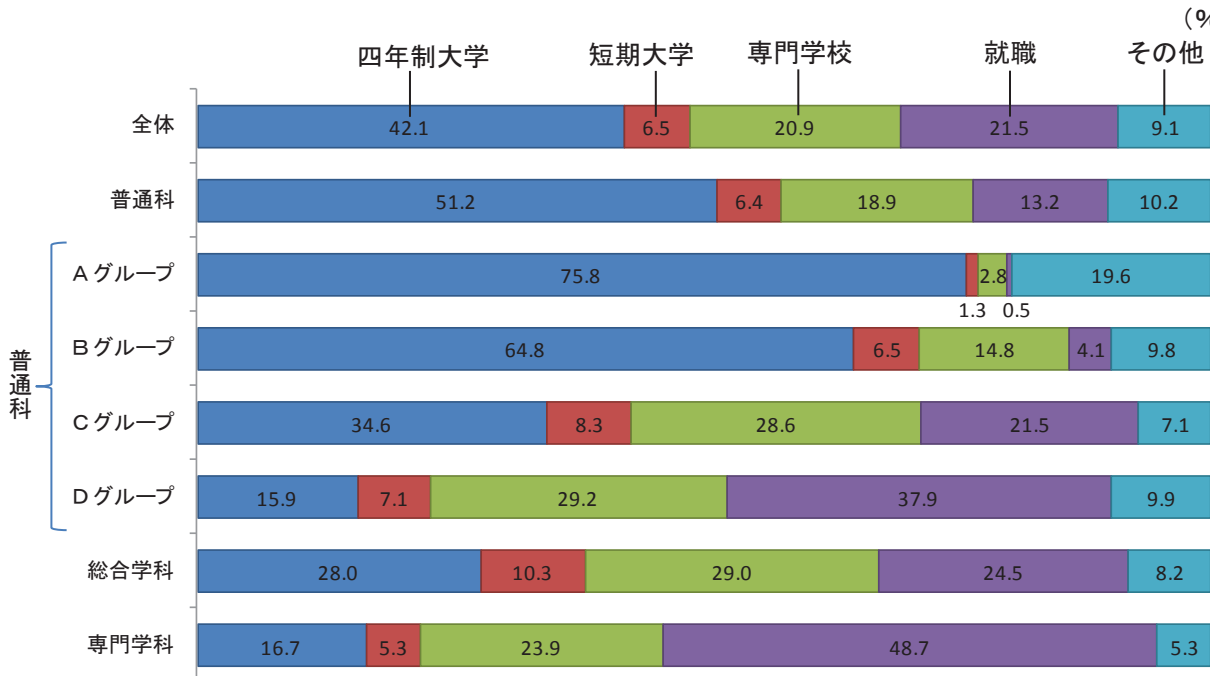
(%)



※本ダイジェストでは、各高校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績（評定平均）にばらつきがみられる普通科に関して、上図に示したA～Dグループの4つに分類した分析結果を示している。以下に、上記4グループを含めた学校種別による卒業後の進路実績を示す。

●卒業後の進路実績【校長調査】

(%)



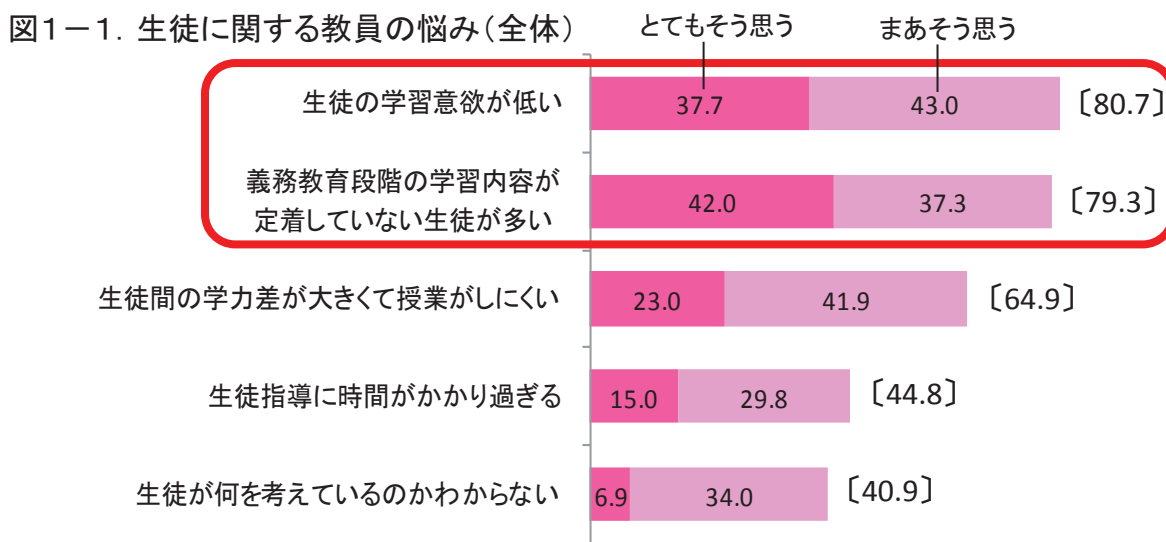
1. 生徒とその家庭背景

8割の教員が生徒の「学習意欲の低さ」「義務教育での学習内容の未定着」に悩んでいる 普通科C・Dグループでは9割を超える

約8割の教員が、「生徒の学習意欲が低い」「義務教育段階の学習内容が定着していない生徒が多い」ことに悩んでいる。

とくに、普通科C・Dグループ、総合学科、専門学科において、悩みを抱える教員が9割前後と高い。

Q. あなたは、次のような悩みをどれくらい感じていますか。【教員調査】



注1) [] 内は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 教員の悩みについてたずねた15項目のうち、生徒に関する5項目のみを示した。

表1-1. 生徒に関する教員の悩み

(%)

	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
生徒の学習意欲が低い	80.7	78.3	49.2	76.6	92.9	91.3	89.5	87.3
義務教育段階の学習内容が定着していない生徒が多い	79.3	76.2	43.0	72.2	91.7	93.8	87.7	89.0
生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい	64.9	63.1	45.5	57.6	74.9	77.6	71.4	71.1
生徒指導に時間がかかり過ぎる	44.8	40.9	13.8	28.4	59.1	74.4	58.2	55.3
生徒が何を考えているのかわからない	40.9	38.0	22.3	33.4	47.2	52.3	45.8	50.6

注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 教員の悩みについてたずねた15項目のうち、生徒に関する5項目のみを示した。

注3) 赤字は全体よりも5ポイント以上、赤字+赤アミカケは10ポイント以上高いものを示す。

注4) 青字は全体よりも5ポイント以上、青字+青アミカケは10ポイント以上低いものを示す。

普通科Dグループで、家庭に困難を抱える生徒が多い

「経済的に困難を抱えている家庭の生徒」「親が子どもの学習に対してほとんど関心を持たない生徒」が「3割以上」（「3～4割くらい」「5割以上」の合計）の比率は、普通科Dグループでそれぞれ約6割、約5割となっている。

Q. 貴校には、次のような生徒がどれくらいいますか。【校長調査】

図1-2. 経済的に困難を抱えている家庭の生徒の割合

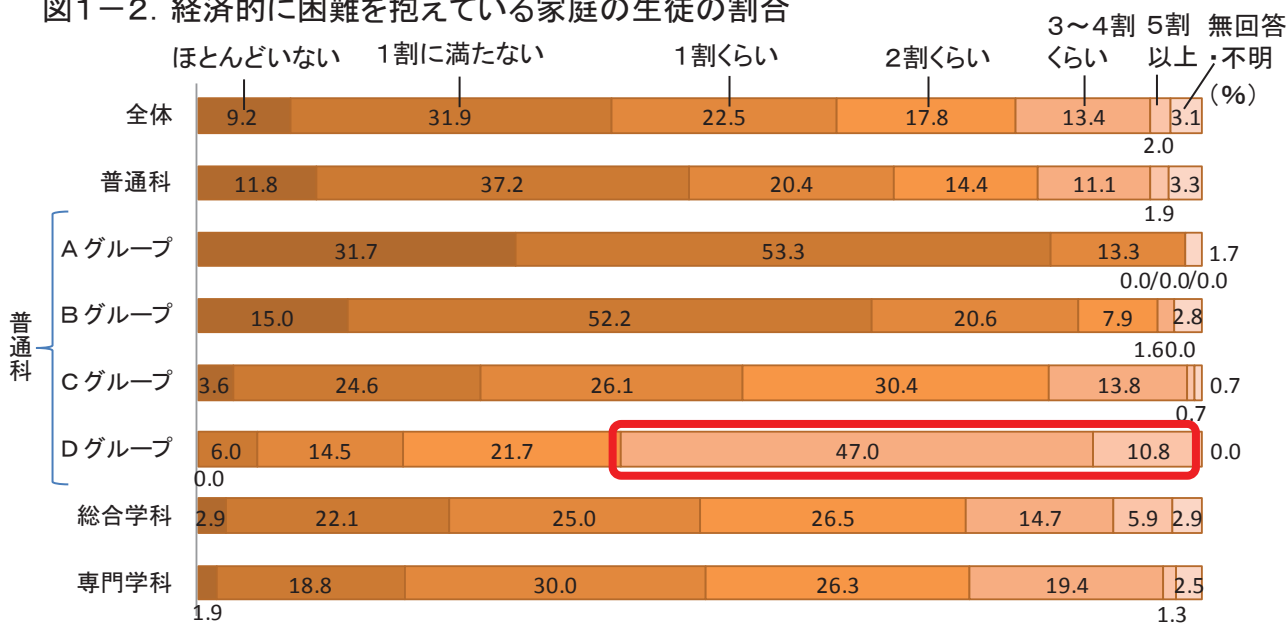
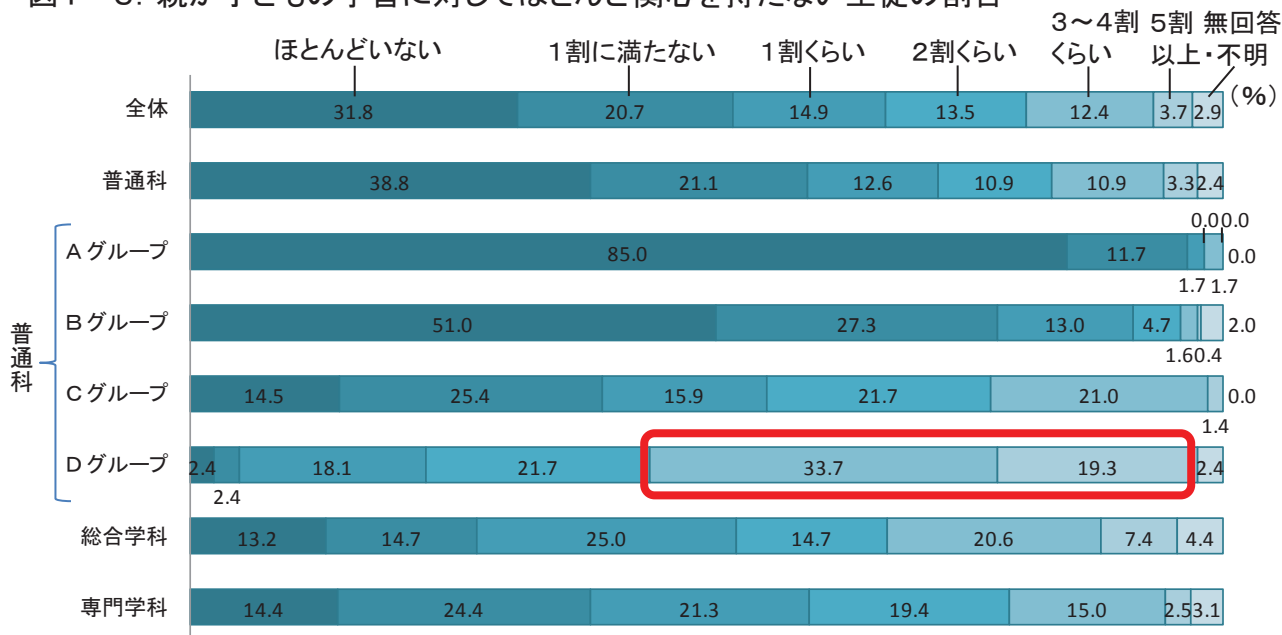


図1-3. 親が子どもの学習に対してほとんど関心を持たない生徒の割合



2. 教育課程の編成

高校の8割「個に対応したカリキュラム」を編成 普通科の中でも、Aグループでは「共通した学習 内容」を重視する比率が高い

8割強の高校の校長が「生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している」と回答。普通科の中でも、普通科Aグループでは「共通した学習内容」を重視する比率が高い。Aグループの中でも、コース分けや進路指導方針に多様性がみられる。

Q. カリキュラム編成上の特徴として、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。【校長調査】

図2-1. カリキュラム編成の特徴

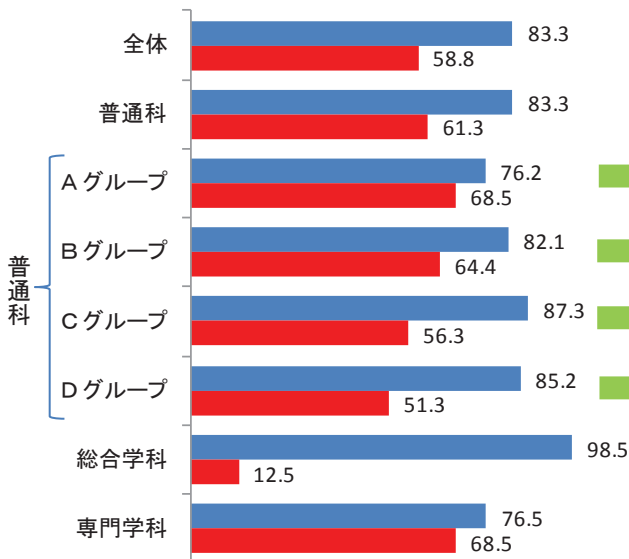
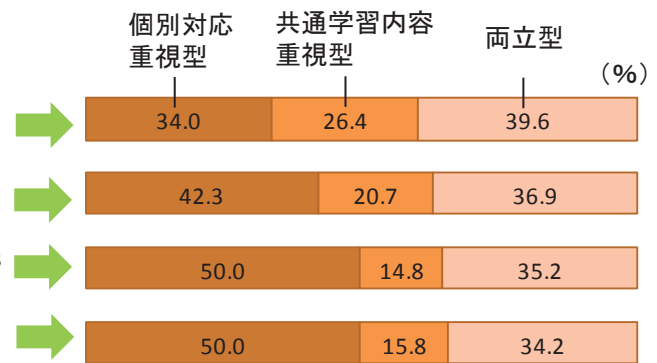


図2-2. カリキュラム編成の特徴3分類
(普通科A~Dグループ別)



注) 学校レベルのカリキュラム編成の特徴について校長にたずねた左の2つの設問を用いて、学校レベルのカリキュラム編成の特徴を3つのグループに類型化した。具体的には、2つの設問とも否定（「あまりあてはまらない」または「まったくあてはまらない」を選択）した層をサンプル数が少ないため除いたうえで、前者の設問に対する肯定度（「とてもあてはまる」：4点、「まああてはまる」：3点、「あまりあてはまらない」：2点、「まったくあてはまらない」：1点、以下同）が後者の設問に対する肯定度を上回ったものを「個別対応重視型」、後者の設問に対する肯定度が前者の設問に対する肯定度を上回ったものを「共通学習内容重視型」、前者の設問と後者の設問の肯定度が一致したものを「両立型」とした。

注1) 青棒グラフは「生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している」の肯定率（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%）。

注2) 赤棒グラフは「生徒全員にできるだけ共通した学習内容を学ばせるカリキュラムを編成している」の肯定率（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%）。

表2-1. 進路別のコース分け【校長調査】 (%) 表2-2. 今後の進路指導方針【校長調査】 (%)

		Aグループ (n=60)	個別対応重視型 (n=18)	共通学習内容重視型 (n=14)	両立型 (n=21)
進路別コース分けの実施の有無	実施している	86.7	88.9	78.6	90.5
	実施していない	13.3	11.1	21.4	9.5
	無回答・不明	0.0	0.0	0.0	0.0

注1) 普通科Aグループ (n=60) のみ分析。

注2) <>は5ポイント以上、<>>は10ポイント以上の差があるものを示す。

注3) 「個別対応重視型」「共通学習内容重視型」「両立型」の類型化については、図2-2の注記を参照。

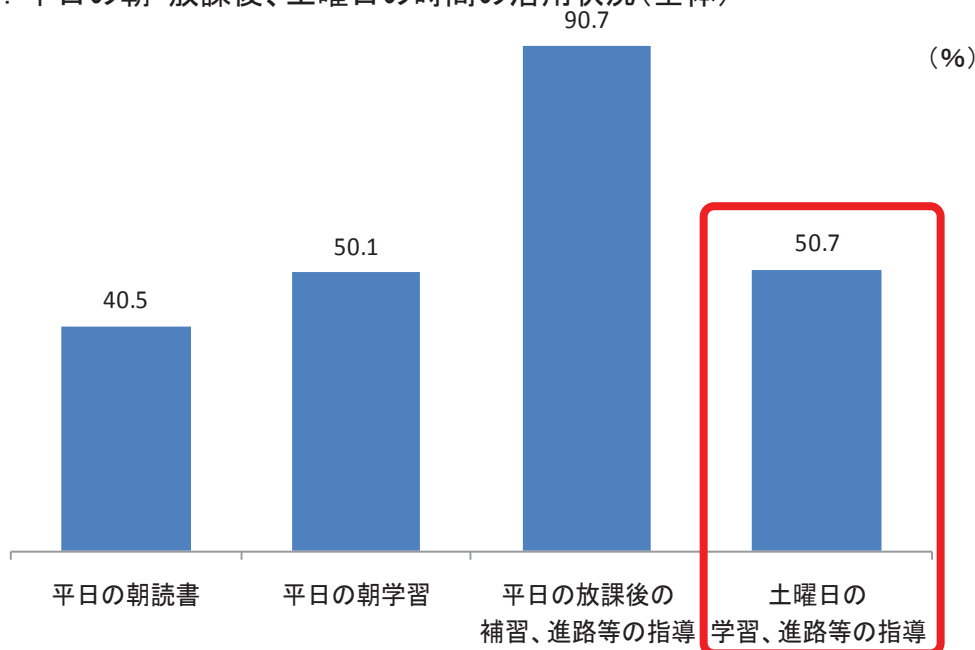
		Aグループ (n=60)	個別対応重視型 (n=18)	共通学習内容重視型 (n=14)	両立型 (n=21)
国公立大学への進学者数	今よりも増やす	88.3	88.9	92.9	85.7
	今と同程度	11.7	11.1	7.1	14.3
	今よりも減らす	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答・不明	0.0	0.0	0.0	0.0
四年制大学への進学者のうち、AO・推薦入試による進学者数	今よりも増やす	8.3	11.1	7.1	4.8
	今と同程度	58.3	77.8	50.0	52.4
	今よりも減らす	30.0	11.1	42.9	38.1
	無回答・不明	3.3	0.0	0.0	4.8

学校週5日制下で、5割の高校が土曜学習を実施 普通科Aグループの実施率は、8割5分に達する

平日の朝読書は4割、平日の朝学習・土曜日の学習は5割、平日の放課後補習は9割の高校が実施している。土曜日の学習は、生徒の中学校時代の評定平均が高い高校ほど、実施率が高い。

Q. 貴校では、今年度、次のような取り組みを実施していますか。【校長調査】

図2-3. 平日の朝・放課後、土曜日の時間の活用状況(全体)



注) 教育課程内または教育課程外での実施率を示している。

表2-3. 平日の朝・放課後、土曜日の時間の活用状況 (%)

	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
平日の朝読書	40.5	38.9	23.3	37.9	45.7	43.4	42.6	46.3
平日の朝学習	50.1	52.2	43.3	59.7	51.4	39.8	35.3	49.4
平日の放課後の補習、進路等の指導	90.7	91.5	91.7	94.5	94.2	79.5	94.1	85.6
土曜日の学習、進路等の指導	50.7	60.0	85.0	71.1	47.8	25.3	35.3	25.6

注1) 教育課程内または教育課程外での実施率を示している。

注2) 赤字は全体よりも5ポイント以上、赤字+赤アミカケは10ポイント以上高いものを示す。

注3) 青字は全体よりも5ポイント以上、青字+青アミカケは10ポイント以上低いものを示す。

注4) 「個別対応重視型」「共通学習内容重視型」「両立型」の類型化については、図2-2の注記を参照。

注5) <>は10ポイント以上差があるものを示す。

個別対応重視型 (n=18)	共通学習内容重視型 (n=14)	両立型 (n=21)
88.9	92.9	>> 76.2

3. 教員の土日出勤、悩み

7割の教員が2週に1日以上土日に出勤している

教員の約7割が2週間に1日以上（「ほとんど毎週出勤」「2週間に1日程度」の合計）土日に出勤している。補習や授業で出勤する比率は普通科Aグループの教員で高く、また約4人に3人が「休日出勤や残業が多い」ことに悩んでいる。

Q. 土曜日・日曜日についてうかがいます。【教員調査】

図3-1. 土曜日・日曜日の出勤頻度(部活動や学校行事も含む)

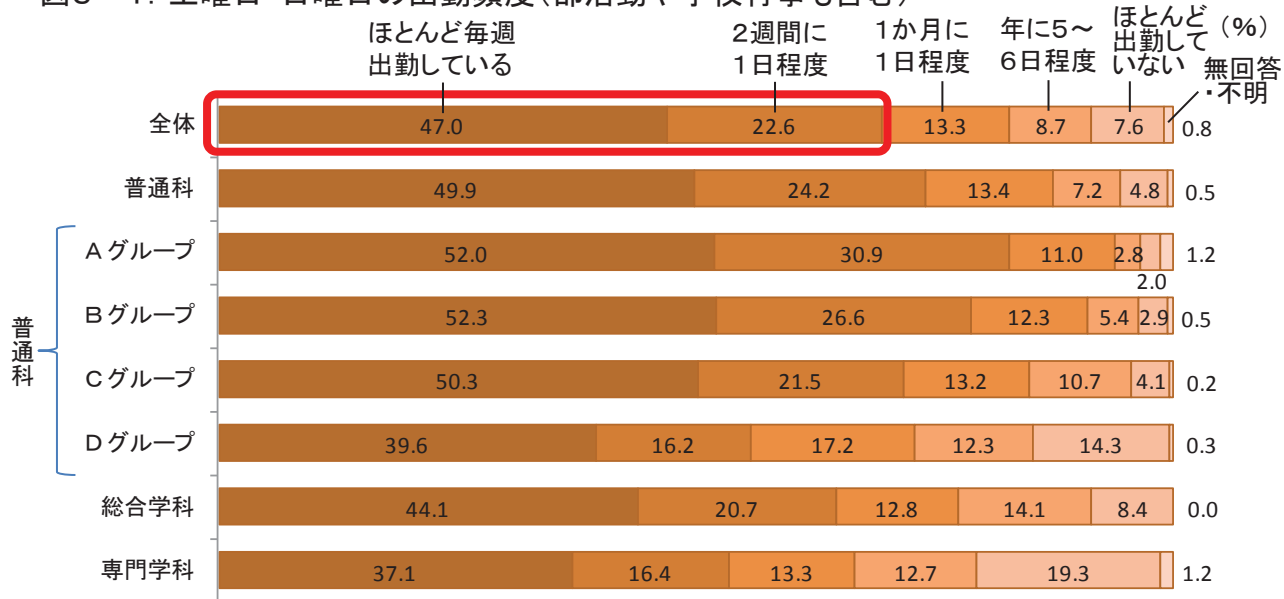
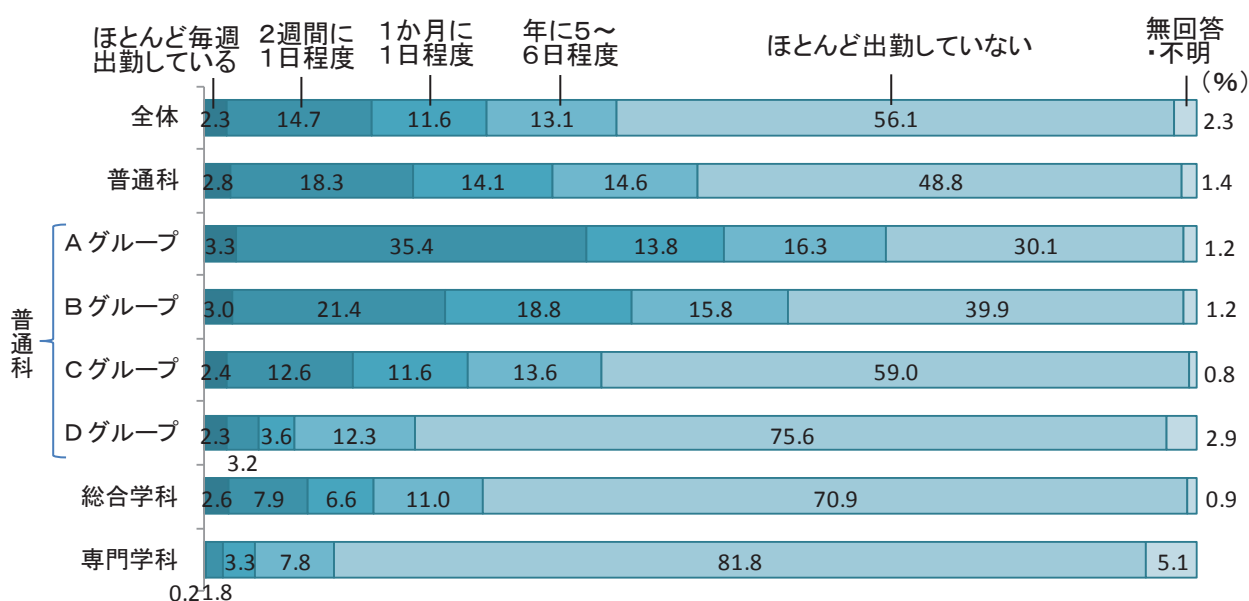


図3-2. 土曜日・日曜日の出勤頻度(補習や授業)



Q. あなたは、次のような悩みをどれくらい感じていますか。【教員調査】

表3-1. 教員の悩み

(%)

	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
教育行政が学校現場の状況を把握していない	78.7	78.8	79.3	78.6	80.5	78.6	78.8	78.1
作成しなければならない事務書類が多い	72.0	73.0	73.9	72.7	75.3	68.9	71.8	66.8
教材準備の時間が十分にとれない	65.1	67.7	71.5	68.3	67.9	62.1	67.4	52.2
休日出勤や残業が多い	61.8	66.3	74.4	69.4	64.9	47.4	56.4	45.0
校務分掌の仕事が負担である	52.0	53.4	48.0	52.8	57.2	53.9	51.9	44.3
図書費や教材費が不足している	51.8	52.1	52.0	52.3	55.4	48.7	49.7	50.7
部活動の指導が負担である	48.9	50.5	48.8	52.8	55.0	40.9	47.5	43.2
年間の授業時数が足りない	44.3	45.0	50.4	52.1	41.6	28.3	39.6	42.2
保護者や地域住民への対応が負担である	31.4	32.0	28.1	29.0	35.1	40.0	30.4	28.6
管理職からの評価が気になる	15.8	15.6	15.9	16.0	17.0	11.3	21.2	13.9

注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 教員の悩みについてたずねた15項目のうち、生徒に関する5項目を除いた10項目のみを示した。

注3) 赤字は全体よりも5ポイント以上、赤字+赤アミカケは10ポイント以上高いものを示す。

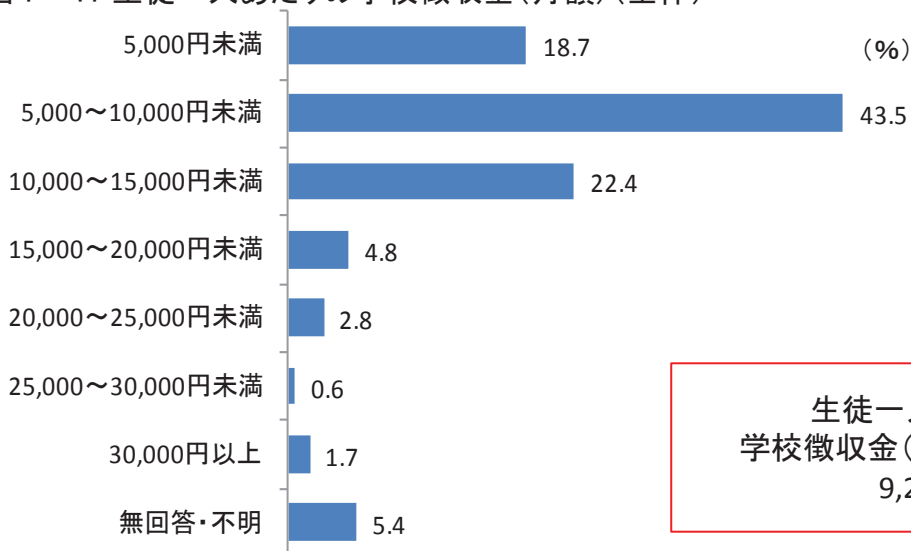
注4) 青字は全体よりも5ポイント以上、青字+青アミカケは10ポイント以上低いものを示す。

4. 学校徴収金

生徒一人あたりの学校徴収金は月平均9,238円

Q. 生徒一人あたりの学校徴収金は、月平均でいくらですか。【校長調査】

図4-1. 生徒一人あたりの学校徴収金(月額)(全体)



注) 「生徒一人あたりの学校徴収金(月額)の平均値」は、「5,000円未満」を2,500円、「5,000~10,000円未満」を7,500円、「30,000円以上」を32,500円のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

5. 授業時間の使い方・進め方

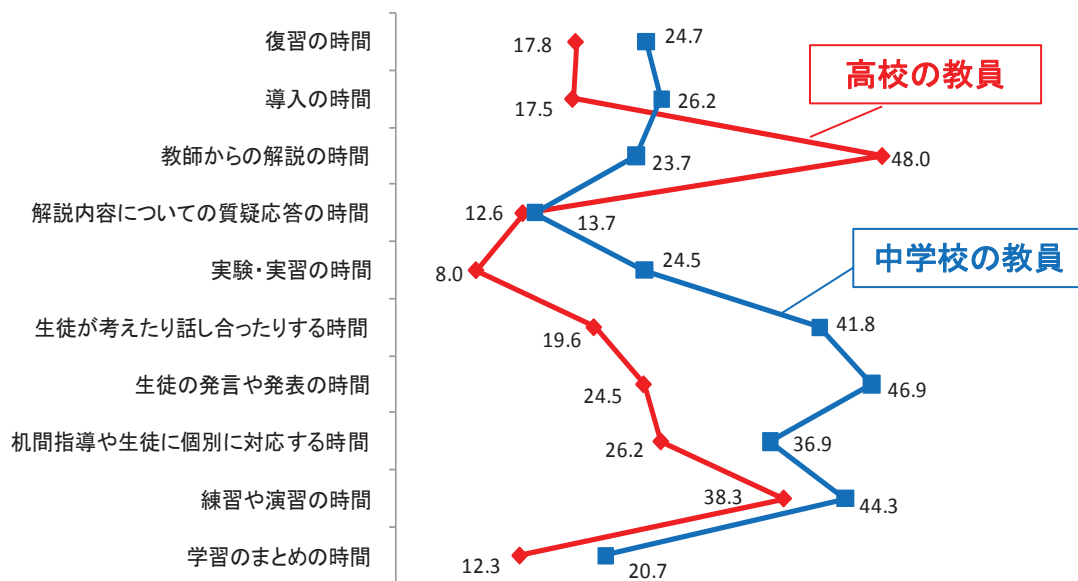
学校種によらず、中学校の教員と比べて 「教師からの解説の時間」を心がける教員が多い

「教師からの解説の時間」を「多くするように特に心がける」教員の比率は、中学校で2割強に対して、高校では5割弱であった。

高校では、学校種によらず「教師からの解説の時間」を心がける教員の比率がもっとも高い。

Q. 授業を進める際にどのような時間の使い方や進め方を心がけていますか。【教員調査】

図5-1. 授業の時間の使い方や進め方(全体、中学校・高校別)



注) 「多くするように特に心がけている」の%。

表5-1. 授業の時間の使い方や進め方

(%)

	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
復習の時間	17.8	16.7	13.4	13.4	17.6	26.0	19.4	20.9
導入の時間	17.5	16.7	15.4	15.1	18.1	20.5	14.5	20.5
教師からの解説の時間	48.0	49.1	52.0	50.1	50.1	40.9	46.7	44.9
解説内容についての質疑応答の時間	12.6	12.9	13.8	11.6	13.6	13.3	11.9	10.9
実験・実習の時間	8.0	7.3	6.5	7.4	7.5	7.1	10.1	9.8
生徒が考えたり話し合ったりする時間	19.6	20.4	24.8	19.7	19.3	16.9	17.2	16.8
生徒の発言や発表の時間	24.5	24.6	23.6	23.6	24.9	24.4	22.5	24.6
机間指導や生徒に個別に対応する時間	26.2	24.8	18.7	20.8	28.6	36.4	31.7	29.1
練習や演習の時間	38.3	38.6	31.3	37.4	42.0	41.2	38.3	37.1
学習のまとめの時間	12.3	11.7	9.8	10.5	15.2	11.7	14.1	12.5

注1) 「多くするように特に心がけている」の%。

注2) 赤字は全体よりも5ポイント以上、赤字+赤アミカケは10ポイント以上高いものを示す。

注3) 青字は全体よりも5ポイント以上、青字+青アミカケは10ポイント以上低いものを示す。

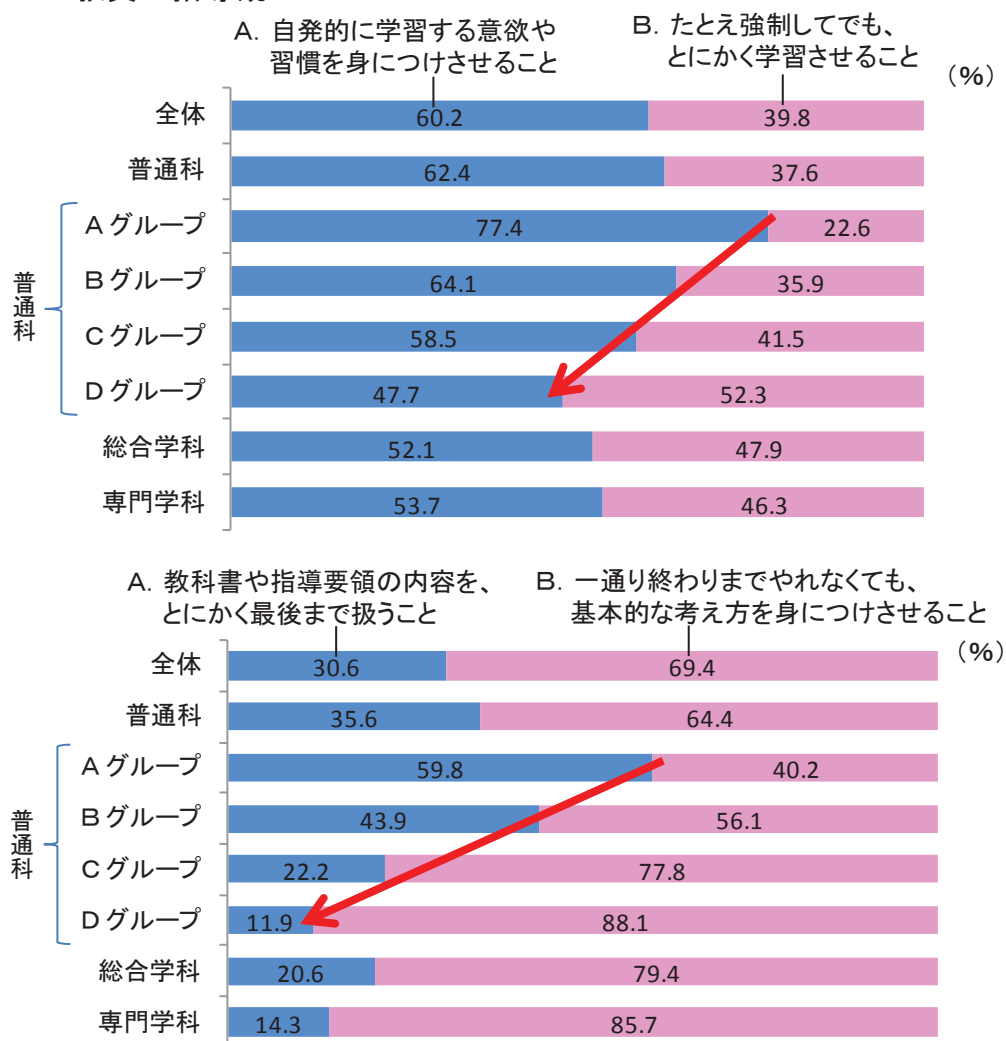
6. 教員の指導観

普通科Aグループの教員は「自発的な学習意欲や習慣を身につけさせる」、普通科Dグループは「強制してでも学習させる」ことを重視

普通科Aグループでは、8割弱の教員が「自発的に学習する意欲や習慣を身につけさせること」を重視している。一方で、普通科Dグループでは、半数以上の教員が「たとえ強制してでも、とにかく学習させること」を重視している。

Q. あなたは、授業などの指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。あえていえば、重視していると思うほうをお答えください。【教員調査】

図6-1. 教員の指導観



注) 「無回答・不明」を除いて算出した。

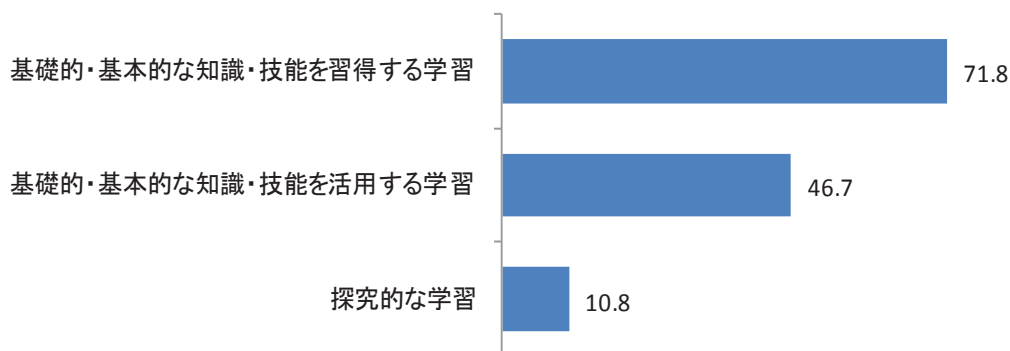
7. 授業の内容

「基礎基本の習得」を心がける教員は7割 「探究的な学習」は1割だが、生徒の中学時代の 評定平均が高い高校ほど心がける比率が高い

約7割の教員が「基礎基本の習得」を多くするように心がけているのに対して、「基礎基本の活用」は4割台、「探究」は1割台である。「探究」を心がける教員の比率は、普通科Aグループで2割弱と相対的に高くなっている。

Q. あなたは、教科や領域の授業において、次のような内容をどれくらい心がけていますか。
【教員調査】

図7-1. 授業で心がけている内容(全体)



注) 「多くするように特に心がけている」の%。

表7-1. 授業で心がけている内容

(%)

	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習	71.8	69.8	54.9	66.7	74.8	82.5	78.4	78.7
基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習	46.7	47.8	50.8	49.3	43.6	43.5	39.2	44.1
探究的な学習	10.8	11.6	17.1	12.4	9.3	5.8	7.9	6.6

注1) 「多くするように特に心がけている」の%。

注2) 赤字は全体よりも5ポイント以上、赤字+赤アミカケは10ポイント以上高いものを示す。

注3) 青字は全体よりも5ポイント以上、青字+青アミカケは10ポイント以上低いものを示す。

8. 学校としての進路指導方針

8割5分強の高校が、今後、国公立大学への進学者数を増やしていく方針

8割5分強の高校の校長が、今後「国公立大学への進学者数」を「今よりも増やす」と回答している。普通科Dグループでも8割弱、専門学科でも7割強の高校の校長が「今よりも増やす」方針である。

Q. 貴校では、次のような進路を選択する生徒数を、今後どのようにしていきたいとお考えですか。【校長調査】

図8-1. 今後の進路指導方針(全体)

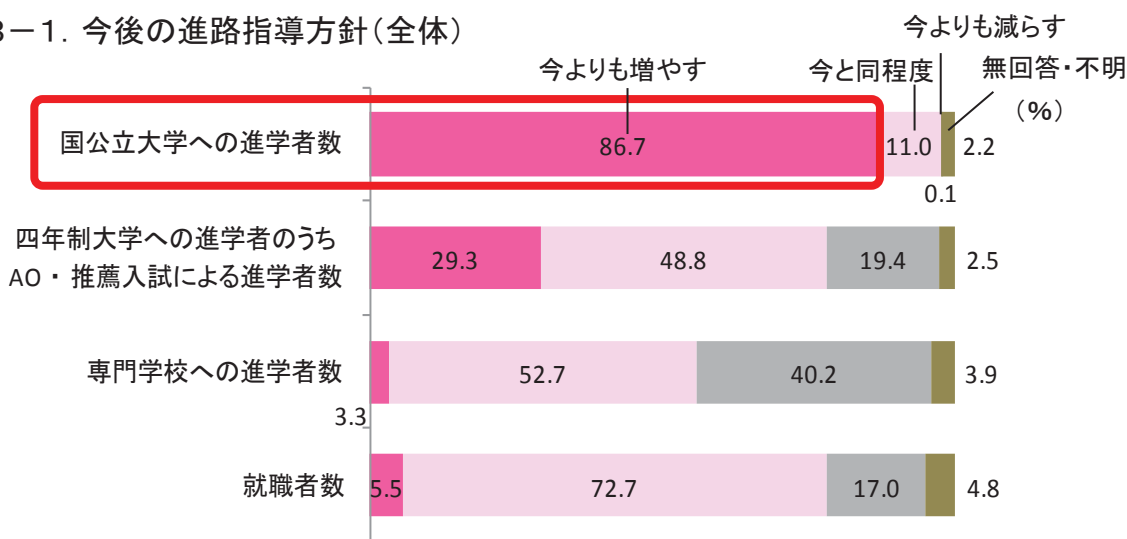


表8-1. 今後の進路指導方針

(%)

		全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
国公立大学への進学者数	今よりも増やす	86.7	90.7	88.3	96.8	90.6	77.1	88.2	72.5
	今と同程度	11.0	7.3	11.7	3.2	6.5	16.9	10.3	24.4
	今よりも減らす	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	無回答・不明	2.2	2.1	0.0	0.0	2.9	6.0	1.5	2.5
四年制大学への進学者のうち、 AO・推薦入試による進学者数	今よりも増やす	29.3	26.0	8.3	16.6	34.8	55.4	29.4	39.4
	今と同程度	48.8	48.1	58.3	52.6	40.6	34.9	47.1	54.4
	今よりも減らす	19.4	23.0	30.0	29.2	21.7	7.2	22.1	5.0
	無回答・不明	2.5	2.9	3.3	1.6	2.9	2.4	1.5	1.3
専門学校への進学者数	今よりも増やす	3.3	2.8	0.0	0.0	1.4	16.9	2.9	5.6
	今と同程度	52.7	50.9	48.3	48.6	51.4	61.4	47.1	61.3
	今よりも減らす	40.2	41.5	38.3	48.2	44.9	19.3	50.0	31.3
	無回答・不明	3.9	4.8	13.3	3.2	2.2	2.4	0.0	1.9
就職者数	今よりも増やす	5.5	3.5	0.0	0.4	5.1	14.5	10.3	11.3
	今と同程度	72.7	71.8	66.7	76.7	73.2	61.4	67.6	78.1
	今よりも減らす	17.0	18.7	20.0	17.8	19.6	19.3	20.6	8.8
	無回答・不明	4.8	6.1	13.3	5.1	2.2	4.8	1.5	1.9

注) 黄色のアミカケは各グループにおける最大値を示す。

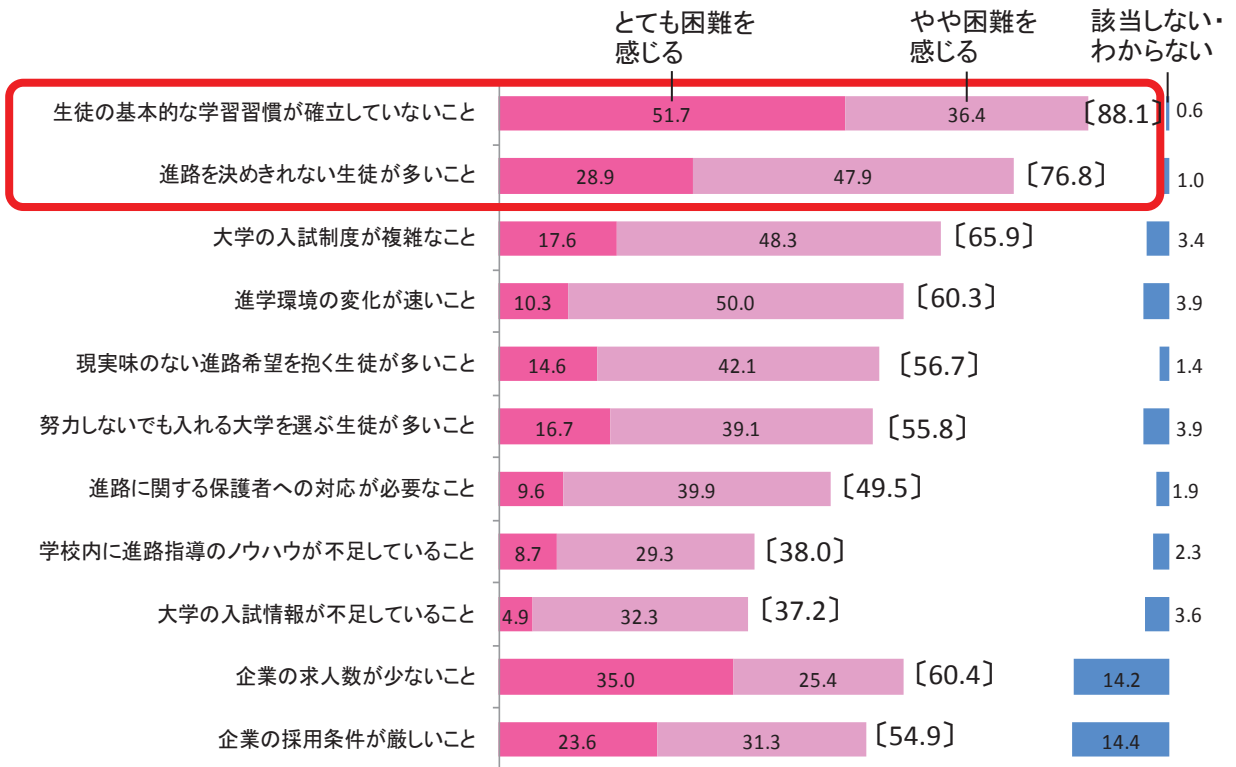
9. 教員が抱える進路指導上の課題

進路指導の際、「生徒の学習習慣が確立していない」「進路を決めきれない生徒が多い」ことに困難を感じている教員が多い

9割弱の教員が「生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと」に困難を感じている。「進路を決めきれない生徒が多いこと」に困難を感じる教員の比率も、7割5分強と高い。

Q. 生徒の進路指導を行う上で、次のようなことに対してどれくらい困難を感じますか。
【教員調査】

図9-1. 進路指導を行う上で困難を感じること(全体)



注1) []内は「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%。

注2) 「企業の求人数が少ないこと」「企業の採用条件が厳しいこと」の2つの設問については、「該当しない・わからない」と回答した比率が一定数存在することから、一番下にまとめて示した。

普通科C・Dグループや総合学科の教員の9割弱が「進路を決めきれない生徒」、7割弱が「現実味のない進路希望を抱く生徒」に困難

普通科C・Dグループ、総合学科では、9割弱の教員が「進路を決めきれない生徒が多いこと」、7割弱が「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」に対して困難を感じている。

Q. 生徒の進路指導を行う上で、次のようなことに対してどれくらい困難を感じますか。
【教員調査】

表9-1. 進路指導を行う上で困難を感じる事 (％)

	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	総合学科	専門学科
生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと	88.1	87.6	66.7	87.4	95.5	95.1	94.7	88.9
進路を決めきれない生徒が多いこと	76.8	77.4	56.5	75.0	86.8	87.4	85.9	71.9
大学の入試制度が複雑なこと	65.9	68.8	70.0	73.3	65.8	55.2	66.5	52.7
進学環境の変化が速いこと	60.3	63.4	65.0	67.2	60.7	52.3	58.2	47.8
現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと	56.7	56.4	40.3	52.1	66.2	68.9	67.4	54.3
努力しないでも入れる大学を選ぶ生徒が多いこと	55.8	55.6	26.1	57.0	69.0	57.1	63.0	53.4
進路に関する保護者への対応が必要なこと	49.5	48.9	33.3	45.1	57.2	62.1	56.8	50.0
学校内に進路指導のノウハウが不足していること	38.0	37.8	26.0	36.6	43.8	43.2	42.8	36.4
大学の入試情報が不足していること	37.2	37.6	35.8	39.0	38.6	34.4	38.8	36.0
企業の求人数が少ないこと	60.4	55.1	10.6	43.6	80.8	89.9	82.8	75.2
企業の採用条件が厳しいこと	54.9	49.9	9.4	39.5	72.4	83.5	75.3	69.3

注1) 「とても困難を感じる」＋「やや困難を感じる」の％。

注2) 赤字は全体よりも5ポイント以上、赤字＋赤アミカケは10ポイント以上高いものを示す。

注3) 青字は全体よりも5ポイント以上、青字＋青アミカケは10ポイント以上低いものを示す。

注4) 「企業の求人数が少ないこと」「企業の採用条件が厳しいこと」の2項目については、「該当しない・わからない」と回答した比率が一定数存在することから、一番下にまとめて示した。

第5回学習指導基本調査(高校版) ダイジェスト

調査企画・分析メンバー

耳塚 寛明	お茶の水女子大学教授
樋田 大二郎	青山学院大学教授
子安 潤	愛知教育大学教授
西島 央	首都大学東京准教授
山田 哲也	一橋大学准教授
宮下 彰	東京都中野区立第七中学校校長
久保島 昌一	埼玉県立不動岡高等学校教頭
今関 和子	元東京都公立小学校教諭、千葉大学非常勤講師
邵 勤風	Benesse 教育研究開発センター教育調査課長
橋本 尚美	Benesse 教育研究開発センター研究員
岡部 悟志	Benesse 教育研究開発センター研究員
鈴木 尚子	Benesse 教育研究開発センター研究員
宮本 幸子	Benesse 教育研究開発センター研究員
佐藤 昭宏	Benesse 教育研究開発センター研究員

※所属・役職名は調査企画・分析時のものです。

Benesse教育研究開発センターのWEBサイトのご案内

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査の結果は、すべて以下のWEBサイトで
ご覧いただけます。

<http://benesse.jp/berd/>

こちらのサイトは

ベネッセ 研究

検索

で検索できます。